「いわての師匠」派遣事業 実施事例集

令和3年度

【事例 】盛岡市立北稜中学校への講師派遣

日時: 令和3年7月7日(水)13:30~14:30

場所 : 盛岡市立北稜中学校 対象 : 1 学年 164 名/教員 6 名

講師 : 岩手医科大学災害時地域医療支援教育センター 眞瀬 智彦

内容: 講演「災害医療の具体的内容、避難所の様子、感染症の仕組み等について。」

<参加者からの感想>

・ 救急医療と災害医療の違いが特に印象的だった。重症の人を早く見つけるために、トリアージという 方法があることを知った。災害に備えて、避難場所や必要なもの等、親と話して準備しておきたいと 思った。

- ・ 怪我をしたり病気になったりしたとき、当たり前に行っている病院でも、災害時はすごく大変な状況 になることがわかった。自分たちはまだ中学生だが、ボランティアとして困っている人を少しでも助 けたい。また、将来の夢は医療に携わる人になることだが、講演を聞いて、そのイメージが明確にな った。
- ・ ニュースなどでは、「もっと早く助ければいいのに」と思っていたが、目の前で起きている状況を把握し、その場で治療することはすごく大変なことなのだと分かった。コロナは自然災害とは違うが、協力していかないといけないということもわかった。
- ・ 一人一人が災害に備えることによって、被害が少しでも小さくなるかもしれないと思った。これからは自分の身を守ったり、周りの人と助け合ったりするために「災害はいつ来るかわからない」と心掛け、生活していきたい。

<授業・講演等による効果>

- ・ 生徒の感想を読むと、医療従事者等、災害現場で働く人や、普段お世話になっている病院関係者に対する見方や考え方が「大変な思いをして助けてくれている」「自分たちに協力できることは何か」といった考え方に変化しているのを感じた。
- ・ 防災に関わって、事前の準備が大事なことはなんとなくわかっていたが、講演を聞いて、「自分たち の備えが災害現場を助けることにつながる」という言葉にもあるようにより一層その必要性を感じて いる生徒が多かった。

<写真>









【事例 】岩手県立盛岡南高等学校への講師派遣

日時 : 令和3年6月14日(月)14:35~16:25

場所 : 盛岡南高等学校カルチャーホール

対象: 2年生 240名

講師 : 岩手県立大学 総合政策学部 地域社会・環境コース 講師 杉安 和也

内容: 講演「自然災害全般から生き残るための基礎知識」

<要旨>

事前アンケートを基に、答え合わせをしながら理解を深めていった。

<参加者の感想>

- ・ 外国に比べて、日本の河川の洪水時流量が多いことに驚いた。
- · 避難を開始してもいいタイミングを誤解していたことに気付かされた。
- ・ 盛岡南高校の敷地が安全で、避難場所に指定されていることが分かった。
- ・ 自宅周辺のハザードマップを確認する必要性を感じた。

<授業・講演等による効果>

避難場所を表す標識、防災気象情報、地震、水害(大雨・洪水・台風)、土砂災害、火山、火災など多岐にわたりお話しをしていただき、多くの生徒が災害に対する危機意識を高めることができたと感じております。「自分の命を自分で守れる」ことを最優先に、今後の防災教育に繋げていきたいと思います。

<写真>









【事例 】岩泉町立小川中学校への講師派遣

日時: 令和3年7月5日(月)13:35~14:25

場所 : 岩泉町立小川中学校

対象 : 全校生徒 28 名(1年生10名、2年生11名、3年生7名) 講師 : 岩手県立大学看護学部 母子看護学・助産学 木地谷 祐子

内容: 講演・体験活動(思春期における体の発達と個人差、心理的発達に伴う制に関する不安や悩み

への対処、赤ちゃん人形の抱っこ体験)

<要旨>

「"おとな"に近づいている今、知っておいてほしいこと」という題で、思春期における体の発達と個人差や、心理的発達に伴う性に関する不安や悩みへの対処について、生命の誕生や異性の尊重、性情報や性被害への対処について生徒の実感に結びつくように分かりやすくご講話いただいた。講話の中では、助手で来ていただいた妊婦の教員が赤ちゃんの心音を聞かせてくれたり、赤ちゃん人形を抱っこしたりと、体験活動も組み込まれていた。

<参加者の感想>

- ・ 性に関することを学んで、自分たちが大人になっていくために思春期がとても大切だということがわかりました。このことを生かしていきたいし、男女のことをお互いに理解することが大切ということがわかったのでよかったです。実際に赤ちゃんの人形を持ってみてとても重かったし、しっかり持ってあげないといけないということがわかったので良かったです(1年生男子)。
- ・ 今回の指導教室では、思春期は、脳が命令を出し、ホルモンが作られることも始まるということが分かったし、思春期が始まると体と心に色々な変化がおきるということが分かった。また、私達は最初 0.13mm ぐらいの大きさだったということにおどろいた。赤ちゃんを抱っこしてみて、思っていたより 重たかったし、首がすわっていなくて、抱っこをするのが大変だったので、長時間抱っこしている母 は大変だなと感じた。辛い思いをして生んでくれた母や大切に育ててくれている多くの人に感謝しながら生きていきたいと感じた(2年生女子)
- ・ 今日の講話を聞いて、思春期というのは、おとなに向かって体や心など、様々な部分が成長する大切な時期なのだと分かりました。また、最初は 0.13mm しかなかったので、お母さんのお腹の中で成長し、10 ヵ月くらいで 50cm、3000g にまで成長していると知り、驚きました。赤ちゃんを抱っこする難しさや重さも体験できて、良い機会になりました(3年生女子)

<授業・講演等による効果>

今迎えている思春期の中で、体と心がどのように発達し、不安へどのように対処すればよいのか、生徒

各々が深く理解し、今後の学校生活や将来に取り入れようとする意識がみられた。また、生命の誕生を学習する中で、小さい命を、苦痛を乗り越えて出産してくれた母親や大切に育ててくれる父親、生まれてきた自分への尊重と感謝も感じることのできた講演であった。

<写真>







【事例 】西和賀町立湯田中学校への講師派遣

日時: 令和3年7月1日(木)9:45~11:35

場所 : 西和賀町立湯田中学校

対象 : 3年生 21名、2年生10名、1年生16名

講師 : IBC 岩手放送 編成局メディア戦略部 部長 相原 優一

内容 : 講演・演習:碑の記憶 VR で碑を体感

・映像から東日本大震災を振り返る

・VR ゴーグルを使った VR 映像体験

<参加者からの感想>

- ・ 津波の映像を見たとき少しずつ堤防から波があふれ、ほんの少しの間に何台もの車が流されていきました。私だったら怖くてパニックになっていたと思うけど、この映像を逃げずにずっと撮っていた人は、怖くても自分の役目を果たそうとしたことがすごいと思いました。この映像を通して、あらためて津波の恐ろしさを知ることができました。またいつ津波がくるのかわからないので、1日1日を大切に過ごし、いざとなったらすぐ行動に移せるようにしたいです。(1年女子)
- ・ 岩手県には昔から津波がきていたことがわかりました。津波がきてしまうのは仕方のないことではあ

るけれども、やっぱりとても怖いです。津波だけが命を奪うのではなく、土砂災害や台風などもとて も危ないので、自然災害が起きたときにはすぐ、避難場所に逃げたいです。そして困っている人がい たら、知らんふりをせず助けてあげたいです。(2年特別支援学級男子)

- ・ 今日は東日本大震災についてたくさん学びました。私は津波の画像や映像を見るのが苦手なので、今日は少ししか見られない部分もありましたが、お話を聞いて、とても悲惨で大変だったことがわかりました。東日本大震災の時、私は3歳だったので全く覚えていません。私は山間部に住んでいるのでわかりませんでしたが、海の方に住む人たちは揺れと津波が一度にきて、家族を失ってしまったことなどを考えると、気持ちが一杯一杯になってしまいました。今日はなかなか体験できないことも体験できました。私も碑を見てみたいです。今日学んだことをしっかり心にとめて、大人になったあとも自分の子どもにこのことを伝えたいです。(2年女子生徒)
- ・ 今日、IBC の職員の方の話しを聞いて、自分が小さくて記憶が無い東日本大震災について改めて深く 考えることができました。津波をただ恐れているだけでは、全然未来につながっていかないことがわ かりました。VR 体験では、津波にのまれてもまだ、そこに残っている建物を見て、命のない建物に生 命力を感じました。これからも震災について学習を深めたいと思いました。(3年男子)
- ・ 大きいテレビで見たよりも、VR で実際に見た方がすごく迫力があった。煙突の上にいる時の映像が高くて怖かった。でも、実際に体験した人は、高いのにプラス、余震、津波、一人ということもあってさらに怖かっただろうなと思った。私は当時のことはほとんど覚えていないけど、今まで学んだこと、これから学んでいくことを後世に語り継いでいきたい。(3年女子)

<授業・講演等による効果>

- ・ 震災の記憶がほとんどない、山間部の生徒にとって VR で見た映像は、震災の記憶としてこれからも消えずに残っていくことと思う。
- ・ 今回の授業は、1・2年生は宿泊研修(実際に沿岸地域で、震災を振り返り復興の現状を学ぶ)の事前学習として、また3年生は昨年の研修の事後学習として有効であった。

<写真>









【事例 】大船渡市立越喜来小学校への講師派遣

日時 : 令和3年7月2日(金)10:40~12:05

場所 : 大船渡市立越喜来小学校

対象 : 5年生 12名

講師 : 岩手大学理工学部 教授 小笠原 敏記

内容 : 児童が作成した「防災 BOOK」に関する発表を聞いたうえで、津波防災の視点による講評

<要旨>

· 総合的な学習の時間を使い1か月間かけて作成に取り組んできた「防災ブック」の発表会を実施した。

・「いわての師匠」小笠原敏記教授には、講評をいただくとともに、次の3つの内容を説明いただいた。

津波の発生メカニズム

東日本大震災の津波とその被害

津波から身を守るために知っておいてほしいこと

<参加者の感想>

・ 震度が小さくても津波が起きることもあると聞いて驚きました。

- ・ 地震が来たら、津波が来ると思ってすぐに避難することが大切だと思いました。
- ・ 津波は昔にもたくさん起きていることが分かりました。
- · 日本は地震の多い国だということが分かりました。

<授業・講演等による効果>

- 伝える相手(いわての師匠小笠原敏記教授)が明確になったことで、子ども達の調べ活動、発表練習、 まとめ方の工夫等に熱が入り、学習そのものが盛り上がった。
- ・ 津波による被害の実情を聞いて改めて自然災害の怖さを感じとることができた。また、これからどのような備えをしていくのか、どんなことに気を付けて生活していけばよいのかを真剣になって考えることができた。







【事例 】岩泉町立釜津田中学校への講師派遣

日時 : 令和3年9月5日(月)13:35~14:25

場所 : 岩泉町立釜津田中学校

対象: 全校生徒 6名

講師 : 岩手県立大学看護学部 母子看護学・助産学 木地谷 祐子

内容: 講演・体験活動(思春期における体の発達と個人差、心理的発達に伴う制に関する不安や悩み

への対処、赤ちゃん人形の抱っこ体験)

<要旨>

・ 思春期には男女それぞれが男性らしい、女性らしい体に変化するが、新しい命をさずかることのできる体に近づいてきているという意味がある。

- ・ 思春期にはたくさんの体と心の変化が起こるが、向き合って悩むことが魅力的な大人になるために大切。悩んだり困ったりしたときには、身近な大人に相談することが大切。
- ・ 新しい命は精子と卵子の出会いから始まるが、その出会いは奇跡的な確率。
- ・ 出産時お母さんは苦しく、赤ちゃんも命がけ。生まれてくるときが人生最大の難関で、みんなはそれ を乗り越えてきた。だからみんなには自分の人生を自分で切り開く強い力がある。
- ・ 妊婦体験、赤ちゃん抱っこ体験

<参加者の感想>

- ・ 新たに知った言葉や事実があって、そのことを忘れないようにして生活していきたいです。赤ちゃんが受精卵のころは 0.13mm ととても小さいのに、生まれるころには 5 0 cm くらいに大きくなって、頑張ったのだろうなと思いました。いつか結婚して子どもを授かったら大切にしたいと思いました。
- ・ お母さんは、赤ちゃんがお腹の中にいるときから、生まれて育てるまで大変な思いをしてきたと思うので、親に感謝の気持ちを伝えようと思いました。将来赤ちゃんをもつかもしれないので、今日学んだことを覚えておいて命を大切にしたいです。自分が生まれたことは奇跡だと思って自分を大切にしたいです。
- ・ 生命の誕生は奇跡的で、命がけだということを知ることができました。これからも自分の命を大切にしていきたいと思いました。また、産んで育ててくれた両親にも感謝したいなと思いました。人生最大の難関を乗り越えてきたので、どんな困難があってもくじけず頑張っていきたいと思いました。

<講演による効果>

- ・ 専門職である木地谷先生から、医学的な根拠のあるご指導をいただいたことで、生徒たちがより深く 思春期の心身の変化を学ぶことができた。
- ・ 命の誕生に携わってきた木地谷先生にご指導いただき、普段学校での教科指導では育み切れない、自 分自身や家族を大切にする気持ちを育ませることができた。







【事例 】田野畑村立田野畑小・中学校への講師派遣

日時 : 令和3年8月23日(金)14:00~16:50

場所 : 田野畑村立田野畑小・中学校

対象 : 小・中学校教員 35 名

講師 : 岩手大学 教育学研究科 教授 山本 獎

内容: 講演「児童生徒が自身の『良さ』を受け入れるために教師にできること」

<講師からの助言>

- ・ 教師であっても自尊感情は高くはない。それが正常であって、高ければ良いというものでもない。低い場合、人は十分な準備をして物事をクリアできるように臨むものであり、それを繰り返すことにより、自己効力感が生まれ、人は成長していくのである。成功までの展望が持てると行動につながり、その行動からの結果により、さらに次へと歩んでいくのである。
- ・ 子どもであっても同じである。謝り方を例に捉えてみよう。子どもによっては上手に接する子どももいるが、その差はスキルの獲得の度合いとして理解すると良い。謝らないではなく、謝れないのである。我々が社会人になったばかりのときを考えてみよう。何か失敗したとき、上司が、仲間が、見せてくれたものである。それを見て、対処の方法を学んでいく。それに従って、謝ることに対する展望がイメージできるようになっていく。子どもたちも一緒で、教師がお手本を示す、型を与えることはとても有効である。
- ・ 様々な成長は真似から始まる。我々は分掌の仕事に展望を持つとき、昨年のデータをもとに考える。 一方、子どもたちに課題を与え、さあ考えてごらんとやってみる。子どもたちはゼロから考えなくて はならない。それは大変なことではなかろうか。展望を持てる授業と、そうでない授業、どちらが、 自己効力感にアプローチできる授業か。
- ・ 褒める、叱るも難しい問題である。能力だけでなく、その子の特性や価値観、興味関心なども気にかけてあげたい。また、行動に対する、ご褒美(正の強化)があるときとないときとでは言葉のかけ方も変わってくる。本人が我慢している行動の場合は、褒めてあげたい。
- ・ 思考の持ち方も考えて行くことが大切である。人を困らせるのは、思考そのものであって、現実をどう捉えるかで、ストレス要因になるかどうかも変わってくる。思考の持ち方ひとつで感情に影響し、行動が変わってくる。適応的に捉えることができれば、良い行動ができるだろうし、そうでなくても、自分の思考の傾向を理解できるようになれば、その都度自分の感情を落ち着かせることも可能となるのである。このことは実は子どもたちを評価するときも生きてくる。評価するとき、「~ができない」と書くべきだろうか。同じことでも「 なときは~ができる」や「 の支援をすれば~ができる」といった評価の捉え方することによって、教師も親も一緒になって子どもを支援する視点で行動できるようになる。
- ・ 自立とはどういうことだろうか。自己効力感を持っている子どもは結果を出すまでの展望を持つことができるが、自立にはもう一つ大切な要素が存在する。それは頼るということだ。生活の中には一人ではできないことが多くある。そのときに頼ることが上手な人は多くの支えの中で達成を繰り返していく。この頼るという要素を子どもたちが獲得できれば、多くの場面で成功体験を積み上げていくこ

とができる。

- ・ 生徒指導についてもこれらのことを意識して取り組むことが必要である。例をもとにすると捉え方ひとつで、支援すべき対象が変わってくる。子どもたちの行動原因を深く理解して行くことが指導には 大切である。
- ・ 良いところも、悪いところもそれが自分の特徴、癖であって、自尊感情が低いとダメなことはない。 自分の自尊感情のパターンを理解して、コントロールできるようになることが大切なのである。

<参加者からの感想>

- ・ 「上手な妥協」「自分のダメなところも受け入れる」等、手本を見せていきたいと思います。子どもが話すことを否定せずに聞くこと、悩んでいることも受け入れること等を心掛け子どもが話しやすい対象になれればと思います。
- ・ 自分や友だちのことを理解すること、受け入れること、頼る(支え合う) 相談することの良さを子 どもたちに感じさせていきたい。
- できるという見通しがあると頑張れるということが、自分自身や子どもたちの行動を振り返って、納得できた。子どもたちに頑張らせたいときにできるという見通しをもたせられるようにしていきたい。
- ・ 子どもの理解を深めるために、子どもの気持ちに寄り添いながら対話をしていきたいです。学級には、 自分の気持ちを話すことが難しい子どもが数名います。また、できる見通しが持てずに、否定的な発 言をする子どももいます。その子たちの本音の部分を理解できたらと思いますがなかなか難しいです。 まずは安心して、話ができるように、その子たちの思いに共感しながら、がんばろうとする気持ちを 後押しできるような支援を考えていきたいです。
- ・ 具体的に挙げて下さった事例について、学級の場面が様々思い浮かびました。大人が思っていることは、子どもたちも同じ。しかし、子どもはそのストレスなどの対処の仕方が分からないから適応できないことがあるのだと聞いてなるほどと思いました。子どもたちが生きやすくあるための考え方や手立てのヒントをたくさんいただけたので、自分にもできることから取り組んでみようと思います。
- ・ 「不自由な考え方をすることがダメで、不自由な考えをやめるようにする」ではなくて、「不自由な 考え方が自分の癖と自分自身で認識する」等いうのは目から鱗ですが、納得しました。そのような考 え方にできるようにするため私たちは具体的に何ができるか考えさせられました。
- ・ 子どもたちが安心して自分の思いを表現できる環境づくりが大切だと思いました。担任の声掛けや友達どうしの関わりを工夫することで安心感のある雰囲気を作ることは可能だと思うので、日々の指導で認識していきたいと思います。
- ・ 学習において「できた!(自信)」「次もできそう!(展望)」を味わわせる方法の一つとして、枠組 みを与えてそれを達成できるような授業づくりをしていきたい。より良くを求めすぎず、ここまでで きたらOKという目標を示していきたい。
- ・ 教師の記録ノートを工夫していくことで、子どもを見る視点、声掛けの仕方が改善されると思いました。褒める際には、分かりやすく行為を具体的に伝えて行けるように今後気をつけていきたいと思いました。
- ・ 子どもたちの様子をよく見て、よく話を聞くこと、良いなあと思った行動を褒めたり、感じたことを言葉にして伝えたりすることを意識したい。一番目の本心をしっかり聞き取ることができるように、 子どもが話したことを別の言葉で伝え返すなど、言語化していくことを意識していきたい。
- ・ 子どもの顔が浮かび、心当たりのある場面を思い出しました。声のかけ方、物事の捉え方等、今後も 時々今回の資料を読み返し、自分の指導を振り返りたいと思います。
- ・ 理想と現実とすり合わせていくのが「成長」であるという言葉が印象的でした。いじめの案件もたく さん話を聞いて、色々な視点から考え、判断し、理解して揚げることが大切だと思いました。
- 「思考」を不自由にする考え方についての7つのパターンは学校内でのトラブルや集団不適応になり つつある生徒が陥りやすい考え方だと思った。「考え方の癖」であることに気づかせるようなアプロ ーチをしていきたい。道徳の授業においても、考え方を広げたり、対人関係の作り方のヒントとして 提案できたりする内容でもあると思った。
- ・ 不適応を起こす生徒が抱えるたくさんの部分の考え方やそれに対するアプローチの方法や声掛けの

仕方を学ぶことができました。「良いところだけでなく、悪い、ダメな部分も受け入れる、指導を」という部分では、集団として目指すところに向かえない部分があった時にどのようにそういった面を子どもに受け入れさせるか、もっと話を聞きたいと思った。

- ・ 子どもたちの行為の裏側にあるものを見てあげて、決めつけることはしない。これが大前提ではない かと思うので、少しでも会話をしてあげたいです。
- ・ 自尊感情が低い自分自身が・・・と考えることが多くある日々でした。「良い点、悪い点があり」分かってはいるけど誰かと比べる。そういう点も含めて、自分を認めたり相手を認めたりということを改めて考え、それをどのようにさせて行けば良いのか考える機会なりました。
- ・ 大人の自尊感情、ここに近づけるのが健全な自尊感情を育むことにつながるということ、いかに私たちの実践につなげていくいかが本研究ととてもつながっていて、とても勉強になった。

<授業・講演等による効果>

今回の講演で田野畑村の小中学校の教員は、子どもたちの心の成長、支援の在り方の多くを学ぶことができた。自尊感情をテーマに小中連携して研究を進めてきたことが、講演の内容と深く結びつき、子どもたちの様子を振り返りながら、多くの学びを得ることができた。明日からの実践にどのように生かすか、あの子にはどうアプローチしていくか、それぞれの教員が持つ課題についても考える良い機会となった。

<写真>









【事例 】八幡平市立柏台小学校への講師派遣

日時: 令和3年9月7日(火)10:20~11:25

場所 : 八幡平市立柏台小学校

対象 : 児童生徒 13 名、教職員 2 名

講師 : 岩手大学地域防災研究センター客員教授 土井宣夫

内容: 講演:岩手山の噴火の仕方と歴史、世界の噴火、岩手山噴火に対しての具体的な対策

<要旨>

・ 世界の様々な噴火の仕方を、動画や写真を活用し説明していただいた。ハワイ式やストロンボリ式、 プリニー式、プルカノ式など様々の形式がある。

- ・ 火砕流の危険性について、動画等を用いて説明していただき、改めて知ることができた。数百度の高温になることや、時速 120 キロメートル近い速いスピードになり、逃げるには難しいこと。1991 年実際に九州でおき、たくさんの死者を出した実例をもとに詳しく説明していただいた。
- ・ 火山はとても危険であり、噴火によって山体崩壊を引き起こすこと。岩手山や世界の山、また身近な 八幡平の各所での山体崩壊の様子を、実際の写真を用いて詳しく説明していただいた。
- ・ 岩手山噴火に備えるためには、岩手山が噴火してからでは遅い。そのため、普段から岩手山を知り情報を常に得ていることが、自分の命を守ることにつながる。

<成果>

- ・ 災害の実際を動画で視聴したり、たくさんの写真を用いて解説してもらったりことによって、岩手山の火 山噴火や世界の火山噴火について、しっかりと学習することができた。
- ・ 柏台に居住する土井先生の講話で、柏台から写真をとった資料等も活用して説明していただいた。そのことで、学習をより身近なこととして感じることにつながった。
- ・ 今後も講師の方々と、事前の打ち合わせをしっかりと行い,より小学生のレベルにあった内容の講話にしていただくなど、効果的な学習にしていく。

【事例 】八幡平教育事務所への講師派遣

日時 : 令和3年7月23日(水)13:30~16:00

場所 : 八幡平市教育事務所

対象 : 教職員 15 名、行政関係者 6 名

講師 : 地域防災センター 教授 福留 邦洋、理工学部 助教 松林 由里子

内容: 岩手山の火山噴火の特徴と避難計画についての講義と演習

<要旨>

- ・ 岩手山が噴火した場合に考えられる災害等についての講義、八幡平市の地図を用いての図上訓練。
- ・ 市役所、消防署、警察署、病院などの公共施設を探すこと、災害が起こった時に考えられる被害(建物、道路、地理的環境から考えられる被害について考える)

<指導・助言の内容>

- · 地域を知ること、人を知ること、災害を知ることが大切である。
- · 想像力を働かせながら地域を見ること。 想像力がとても大事である。
- ・ 図上訓練でとらえたことを基にして、実際の地域を見直すことで、災害に対する備えができる。(学校の危機管理マニュアルの見直しにもつなげられる。)
- ・ 勤務している地域の様子を事前に知っておくことが必要。

<成果>

- · 岩手山や八幡平が噴火した際の災害について知ることができた。
- ・ ハザードマップは示されているものの、いざ災害が起こった時には、様々な現象が起こり得ること。
- ・ 図上訓練を行ったうえで、実際の地域を見ることにより、さらに災害に対する意識が高められること。
- · 参加した研修者が、自分の学校の周りの地域を知らないことを知ることができた。

【事例 】岩手県立高田高等学校への講師派遣

日時 : 令和3年9月15日(水)15:00~16:00

場所 : 岩手県立高田高等学校 対象 : 生徒 350 名、教職員 42 名

講師 : 岩手県立大学 講師 杉安和也

内容: 講演(オンライン): 災害時の避難方法と日頃の備え

<要旨>

・ 日本の現状(地震について)

・ 避難の方法(昔の常識と現代の常識)

・ 科学的データに基づく津波の詳細

<指導・助言の内容>

· 昔と今の避難の仕方や備えは異なっている。

- ・ 災害後の町が抱える問題点。
- · 災害が起こったことについて後世に伝えることの重要性。

<成果と課題>

- ・ 報道特集などで知られていることをまとめて知る良い機会となった。日頃の備えに関することから、現状 における問題点などをピックアップし、理路整然と生徒にわかりやすく講義をされていた。専門家ならで はの見識を生徒へ一斉に伝えることができたのは大きな成果であると思われる。
- ・ 今回はなかったが、津波の映像等を見せることで、生徒に動揺を与える可能性もある。そのような場合にはケアが必要である。
- ・ Google のアンケートフォームが学校の wifi につなげられず、Zoom と携帯電話を使用した双方向でのやり とりができなかった。今後、このような講演が増加することが想像できる以上、ハード面の整備が喫緊の 課題である。







【事例 】 奥州市立水沢南中学校への講師派遣

日時 : 令和3年10月29日(金)13:45~15:15

場所 : 奥州市立水沢南中学校

対象 : 3年生213名、教職員12名

講師 : 岩手保健医療大学 齋藤 史枝

内容: 講演・演習:災害時にまず何をする?何が必要? ~災害にあったときに大事なこと~

<要旨>

1.講義「災害時の感染対策」

- (1)災害とは何か
- (2)災害時の避難所
- (3)避難所での感染管理、起こりやすい疾患
- 2. 演習「体育館を避難所にしてみよう」
 - (1)感染症予防をふまえたスペース
 - (2)プライバシー保護のための工夫

<感想>

- ・ 「平時から準備をしておくこと」が大切だと改めて感じた。また、「誰もが生きやすい世の中をつくる」ことが大切だと思った。
- 正解はないから最善を尽くすことが大切だと学び、災害時に周りに気を配れる人になりたいと思った。
- ・ 災害によって起きる病気は、人間の行動すべてに要因があることを知った。人への気遣いはもちろん、 一つ一つの行動に責任をもって過していきたい。人との関わりも大事にし、共に協力し、助け合って いきたい。
- ・ 避難所の環境が悪いということから、国からの予算などの対応が必要だと思った。一人一人がすれば 良いこともあるが、それだけではできないこともあると思った。

<成果・効果>

- ・ 「自助、共助、公助」について、広い視点で考えることができた。冷静な判断の必要性とともに、実際の備えだけでなく心の健康の維持について考えられるようになった。特に、人との関わり、コミュニケーションの大切さに目を向け、社会的弱者(高齢者、子ども、障がい者)に対して、実際の行動につながるよう自分ができることを具体的に考える生徒が増えた。
- ・ 演習では、テントやトイレなど実物を見ながら考えることでイメージがわき、衛生面、感染対策も含めて、 お互いが快適に暮らせることで精神的負担が軽減されるなど、スフィア基準に基づく考えをもつ生徒が多 かった。









【事例 】北上市立黒沢尻北小学校への講師派遣

日時 : 令和3年9月14日(火)9:00~12:00

場所 : 北上市立黒沢尻北小学校

対象 : 児童 65 名、保護者 5 名、教職員 6 名、行政関係者 2 名、地域 15 名

講師 : 岩手県立大学 総合政策学部 准教授 宇佐美 誠史

内容: 児童への講義・演習

「まちあるき」を行った後、交通安全、生活安全の視点による「安全マップ」の作成を行う

<要旨>

フィールドワークで危険を探す視点、ポイントを説明していただいた。

- ・ 交通安全…車の種類と多さ 車が走っている様子 自転車の多さ
- ・ 不審者…入りやすいところ 見えにくいところ
- ・ 道路やその周囲、建物などの危険...・歩くのに危ないもの、こわれているもの
- ・ 子ども 110 番の家・店

示されたマークをもとにチェックした危険箇所をマップ上に記録した。

<成果・効果>

フィールドワークについて、視点を具体的に示していただいたことで、児童も危険性を具体的に予測し、マップに記録することができた。また、フィールドワーク後に、当日調べた内容の活用の仕方をお話しいただいたことで、今後の活動の見通しをもつことができ、マップ作りの意欲付けにもつながった。







令和2年度

【事例 】岩手県立盛岡商業高等学校への講師派遣

日時 : 令和 2 年 8 月 21 日 (金)~12 月 18 日 (金)(計 5 回、毎回 13:35~14:25)

場所 : 岩手県立盛岡商業高等学校 対象 : 流通ビジネス科3年生 78名

講師 : 岩手県信用保証協会 大川康亮 他

内容: 科目「課題研究」における企業までの流れ、ビジネスプランを学ぶ

<要旨>

・第1回「保証協会について、事業計画作成について(概要~事業領域)」

・第2回「事業計画作成について(収支計画作成)」

・第3回「事業計画作成の進捗確認」

・第4回「プレゼン資料作成の進捗確認」

・第5回「作成した事業計画のプレゼン」

<参加者からの感想>

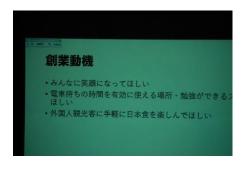
毎時丁寧な授業を展開していただいた。生徒たちの質問に答えるだけでなく、作成途中の事業計画について、何度となくメールでのやりとりも行っていただき、精度の高い事業計画を作成することができた。この計画を作成することで、地域について店舗賃料や給料、最低賃金など深く考え、地域の現状を把握することができ、より地元への愛着が深まったと感じている。また、柔軟な発想から新しいビジネスモデルを創造することができ、この生徒たちの中から将来の起業家が生まれるのではないかとの期待感も持つことができた。指導に当たっていただいた大川さん、高橋さんには感謝しかございませんし、ぜひ来年度以降も継続してご指導をいただきたいと願っております。

<写真>













【事例 】釜石市立釜石中学校への講師派遣

日時: 令和2年10月8日(木)8:45~15:20

場所 : 釜石市立釜石中学校

対象: 2年生94名

講師 : 岩手大学地域防災研究センター 教授 福留邦洋

内容 : 講義・演習「学校・家庭・地域での日ごろの備え、防災教育に関わること」

<要旨>

2年生3学級において、学級毎に1時間目は講義、2時間目は演習を実施した。

講義では、震源の分布を世界地図で確認し、日本で世界の地震の 20%が起こっていること、災害とは自然の力が人の生活に被害を与えることであること、よって災害は自然のエネルギーだけでなく人の生活にどの程度の被害が出たのかということの 2 つの積で考えなければいけないこと、災害伝言ダイヤルの使い方、避難所運営、ボランディアなど多岐にわたってお話しいただいた。

演習では、学区の地図に自分の自宅、避難所と避難場所、浸水区域や土砂災害の危険性がある場所をプロットし、どのような避難行動をとるべきかを学んだ。

<参加者の感想>

- ・「自分の住むところの危険な所や安全な所を知り、災害が起きたらどうするべきか考えられて良かったです。それから、災害が起きてからの行動、災害が起きる前に対策をしておくことが大事だと知りました。しっかり対策をしておけば被害は最小に抑えられると知ったので、準備をしておきたいです。」
- ・「今回のように白地図と照らし合わせて詳しい浸水地域、土砂崩れの危険性がある箇所などを調べたのは初めてでした。『想定にとらわれない』とか『そのときになってみないと分からない』といったことはよく聞きますが、今回のように前もって確認しておいた方が安心だなと思いました。」
- ・「小学校の頃から何度かハザードマップを活用した学習はしてきましたが、今回はその中でも一番具体的で手順の多いものでした。私は今年の春に引っ越しをして、自分の家の周りのことが把握しきれていなかったので、授業で確認できて良かったです。また、地域に設置されている倉庫等、住民を守るしくみがあると知ることができました。一方で、避難所の人が密着する状態を見て、『家での設備を備えることが必要だ』と感じました。」

<実施の効果>

生徒の感想にもあったように、ハザードマップを見てはいても、実際の行動までのシミュレーションをすることが難しい状況にあった中、このような機会をいただいたことで、実感を持って避難行動について考えることができたと感じる。

<写真>







【事例 】北上市立黒沢尻北小学校への講師派遣

日時 : 令和2年9月15日(火)及び9月23日(水)9:00~14:00

場所 : 北上市立黒沢尻北小学校

対象 : 3年生 66 人 職員 6 名 保護者 11 人 地域 7 人、関係機関(北上警察署、市地域づくり課)

講師 : 岩手県立大学総合政策学部 准教授 宇佐美 誠史、アシスタント 中野 五月

内容: 地域安全マップ作成のためのフィールドワーク

<要旨>

児童と一緒にフィールドワークに参加し、危険箇所や安全な場所についての助言を行った。

<参加者の感想>

【児童】

- ・狭い歩道に雑草が生えていたり道路に穴があいていたりして危険だと思いました。皆にも教えます。
- ・危険箇所のメモを取るのが難しかったけれど、地域の方が教えてくれて自分でも書けるようになった。
- ・私たちが訪ねたこども110番は今まで駆け込んだ人がいないそうです。平和でいいなあと思いました。
- ・歩いてどういう場所が危険なのかと分かりました。交差点で車が止まらず走っていて怖かったです。
- ・一緒に歩いたお母さんやお巡りさんに私たちが気付かなかった危険について教えてもらいました。
- ・フィールドワークで危険な所や安全な所を知ることができたので、覚えて自分を守りたいです。
- ・フィールドワークで感じたことは地域の方がとても優しいということです。笑顔で分かりやすく教えてくださり、嬉しい気持ちになりました。いつも私たちを見守ってくださりありがとうございます。
- ・信号のない横断歩道がたくさんあったので、右・左をしっかり見て渡ろうと思いました。
- ・坂道の下の十字路には「止まれ」の線があるけれど、急に止まれない時があることを知りました。スピードを出しすぎると危ないという事が分かりました。
- ・曲がり角は、車が来るのがよく見えないから事故が起きやすいことが分かりました。
- ・こども 110 番の家を訪ねたら「いつでも駆け込んでもいいですよ」と言っていただけて安心しました。
- ・大きな地震があった時は「一時避難所」である公園に行くことが分かりました。家が危険な時は、もっと 安全な避難所があることも分かりました。

【保護者・地域・関係機関のボランティア】

- ・元気な子ども達からパワーをいただき楽しく回ることができました。子ども達も「楽しいね」と言っていました。3 年生は30分がいい時間なのですね。集中力がなくなって歩き方も危なくなってくるので地域のボランティアが必要だと分かりました。時間もコースもちょうど良いです。
- ・想像以上に危険な所が多いことに驚きました。親として、もっと具体的に道路の歩き方について話さなければと感じました。子ども達と話しながら楽しく歩くことができて良い経験になりました。
- ・危険箇所、加害者の目線は、年代と共に変わります。よってこのように毎年マップ作りをすることは将来への大きな財産になります。子どもは我々未来の宝です。我々が守り、子ども達が情報を共有していくことが重要と考えます。
- ・子ども達は各々自分の役割があることで責任を持って取り組んでいると感じました。シールの確認や危険 箇所のメモ、写真を撮ること等の行為が危険を回避の意識づけになっていると感じました。
- ・実際に歩いてみると危険な所がより解る。そのためには、やはりボランティアのアドバイスが必要かなと 思いました。また、参加しようと思っています。
- ・今年は昨年の3年生が見つけた注意ポイントを確認しながら、更に気を付ける点を見付けながらのフィールドワークでした。7人の子ども達とゆっくり見ながらだったので新たな気付きもありました。
- ・こども 110 番の家の方が、前日は奥様、今日はご主人の対応でしたが、以前困って駆け込んできた児童の 話をしてくれる等、情報を共有されていて、とても良いなあと思いました。

<実施の効果>

昨年度に続き、ご指導いただいていることから、改善点についてご理解いただいた上で児童や地域の 方々へフィールドワークで危険を探す視点、ポイントに基づいた指導・助言等をしていただき大変有意義 な活動になった。また、今年度は新しい視点として各地区の避難所やハザードマップの見方や活用の仕方 等についても説明していただいたことで、町歩きの視点が新たに加わり、地域の安全についての学習が更に深められた。そして、フィールドワーク終了後、今後実施する安全マップ作りについても指導・助言をいただいた(昨年から改善する点について相談に乗っていただき有難かった)。

<写真>









【事例 】一関市立萩荘中学校への講師派遣

日時 : 令和2年11月11日(水)13:40~14:40

場所 : 一関市立萩荘中学校

対象 : 1年生 60 名、2年生 58 名、3年生 63 名、教員 17 名

講師 : 岩手大学 理工学部 准教授 山本英和

常に高い数値だったことにはとても驚きました。

内容: 講義「一関市で被害があった岩手宮城内陸地震など地震災害の特徴とその対応策(備え)」

<要旨>

地震の発生に関するメカニズムや地震が私たちの実生活に与える影響、本市の地質的な環境条件などについて説明していただくとともに、具体的な防災対策など私たちが日常生活で留意すべきことについて説明していただいた。

<参加者からの感想>

- ・地震では家具の転倒による死者が多いこと、一関で強い揺れが起こる可能性が高いことなどが分かった。地震はいつ起こるのか、どのくらいの揺れなのかを前もって知ることができないので、避難した時の非常持ち出し品(特に水)を用意しておこうと思った。地震で大切な命を奪われないようにしたい。
- ・講演会で学んだことがたくさんあった。それは、地震の被害の恐ろしさです。これまで何度も被害の 様子を見てきましたが、阪神淡路の実際の映像を見て鳥肌が立ちました。そして、一関にも危険があ るということも知ることができたので、いつ地震が来てもいいように、水や非常食の備え、避難場所 など確認していきたいです。
- ・私は一関の揺れの確立に一番興味を持ちました。 地震の被害や対策については一部分かってはいましたが、自分たちの住んでいる一関市がどのくらい 地震の危険があるのか知ることが出来て良かったです。一関市は震度6弱以上になる確率が30%と非

地震は予測することは難しいけれど、きちんと防災対策をとって地震に備えたいと思いました。

・私は、化学や機械が好きなのですが、微動探査の機械がすごいと思いました。振動を使い、地面の柔らかさを調べるというのは、地震のことについて知り尽くしていないとできないことだと思うので、とても驚きました。自分も何かひとつのことを研究したり、何かすごい研究開発に携わりたいという思いが強くなり、たくさん勉強しようと思いました。

<実施の効果>

子どもたちは、講演内容に興味を持ち、熱心に聞いていた。また、防災対策として避難場所の確認や避難グッズの準備など、災害に事前に備えることが大切であるという感想が多く出された。 教員からも「地震の説明が具体的でその対策のとり方が良く分かった。」との感想が寄せられた。

<写真>



【事例 】盛岡市立 乙部中学校への講師派遣

日時 : 令和 2 年 11 月 13 日 (金) 13:30~14:30

対象 : 2 年生 15 名、保護者 6 名 講師 : 岩手県銀行協会 菊池芳泉

内容: 講義・演習「生活設計・マネープランゲーム」

<要旨>

講師の方の進行で、カードゲーム教材「生活設計・マネープランゲーム」を行った。内容は20~40 歳までの人生の中で得られるお金や支出にはどんなものがあるか、引いたカードの結果からゲーム形式で シミュレーションを行った。

参加した生徒は15名。他に保護者7名も授業参観として教室の後ろで生徒の活動を参観した。

<参加者の感想>

マネープランゲームの中で、ローンに頭金が必要なことや、支出の中に非消費支出があることを初めて知りました。難しい「三大資金」のこと、ローンのことはいずれ知っておかなければならないと思っていたので、その仕組みなどを生かして進路についても考えていきたいと思います。

<写真>



【事例 】盛岡市立 乙部中学校への講師派遣

日時 : 令和2年11月13日(金)13:30~14:30

対象: 2年生8名、保護者12名

講師 : 岩手保健医療大学 看護学部教授 福島道子

内容: 講義「訪問看護って何?」

<要旨>

訪問看護は医療的ケアの他にも心理的な支援も必要な大切な仕事で、とてもやりがいを感じる仕事であることを学んだ。

<参加者の感想>

看護の中にも訪問看護、看護師、保健室の先生、助産師、保健師など様々な道を選ぶことができることを知った。

<写真>





【事例 】盛岡市立 乙部中学校への講師派遣

日時 : 令和2年11月13日(金)13:30~14:30

対象: 2年生6名、保護者8名

講師: 岩手生物工学研究センター ゲノム育種研究部 阿部陽、園芸資源研究部 西原昌宏

内容: 講演 「ゲノム解読と育種への利用」

講演 「植物バイテクの今、昔

<要旨>

遺伝子組み換えで、新しい品種の米や野菜を作っていることや、遺伝子を見つけるための装置について 学修を行った。

<参加者の感想>

バイオの研究に向き合う姿から、色々なことに興味を持ち将来の夢を決めることが大切だと思いました。 最先端で活躍している人がいることを改めて実感し、自分も社会貢献できるように頑張りたい。

<写真>



【事例 】盛岡市立 乙部中学校への講師派遣

日時 : 令和2年11月13日(金)13:30~14:30

対象: 2年生6名、保護者7名

講師 : 岩手県宅地建物取引業協会 多田幸司

内容: 講演「君の可能性にかける~チャンスを掴むには」

<要旨>

チャンスは誰にでも平等に訪れるが、チャンスをチャンスだと見抜く力が本当の力であることなどを学んだ。

<参加者の感想>

勉強は苦手だけど、文武両道を目指して脳と体を鍛えていきたい。支えてくれる人や支えなければならないという考えがあれば、夢は何だって叶えられるということがわかった。

<写真>



【事例 】水沢市立水沢南中学校への講師派遣

日時: 令和2年11月4日(水)13:45~15:15

場所 : 水沢市立水沢南中学校

対象 : 2年生212名、職員12名

講師 : 岩手保健医療大学 看護学部 助教 齋藤史枝

内容: 講演「災害時にまず何をする?何が必要? ~災害にあったときに大事なこと~」

<要旨>

1.災害とは何か

2.災害のサイクル(フェーズ)での医療活動

3.トリアージの体験

<参加者の感想>

・私たちの地域は比較的安全な地域だと思っていたが、災害が起きる危険があることを知って、この考え方を改めなければならないと思った。

- ・災害が起きた時に対応できるように、普段から動けるようにしたいし、普段からできないことは災害時にできないということがわかった。
- ・災害時は自分の安全を確かめて、「人のためにできることをさがす」ということを頭に入れておき たい。
- ・場面に適した判断ができるよう大人にたよらず、自分の考える力も身につけていきたい。

<実施の効果>

実際の行動に結びつくかはこれからのことであるが、判断することの難しさを感じながらも、その大切さに気づく生徒が増えてきた。備えの必要性に気づいた生徒や、以下のように実際の行動につながる考えをもった生徒もいる。

- ・避難訓練を何度もやることの意味に気づいた。
- ・命を助けるために自分でもできることは何か、少しでも助けになるのなら、勇気を出して行動していきたい。 医療関係者の方々の仕事が少しでも減るように協力したい。
- ・歩けるかどうかで、治療の優先順位が変わるのはわかりやすく、自分でも確実に判断できる。ケガをしている人がいたらすぐに助ける人が必要だ。冷静に判断して、自分が知っている範囲で処置をしたいと思う。
- ・トリアージを体験して、声をかける、伝えるなどのコミュニケーションの大切さに気づいた。

そのほか、職業としての医療に興味・関心をもつ生徒、高まった生徒が増え、キャリア教育にもつなげることができた。

<写真>





【事例 】水沢市立水沢南中学校への講師派遣

日時 : 令和2年11月9日(月)11:00~12:20

場所 : 水沢市立水沢南中学校

対象 : 1年生175名、職員10名

講師 : 岩手大学 地域防災研究センター 客員教授 土井宜夫 内容 : 講演「自然災害が発生するメカニズム・自然災害の歴史」

<要旨>

1. 地震のしくみ

2.火山噴火の原因

<参加者の感想>

- ・断層があった場所は地震が発生しやすいと学びました。以前起きた場所がわかれば、危険な場所がわかり、備えることができると思いました。
- ・地震は岩盤が割れることで発生することと、噴火の大きさは山によって違いがあるということがわかりました。どれも、自分が思っている以上に危険でおそろしいもので、人ごとではないということを 学びました。
- ・災害の中で噴火はあまり考えたことがなかったが、亡くなる人もいるので、関係ないと思わず、知ろ うと思った。

<実施の効果>

生徒はこれまでの災害時の行動を振り返り、大人の指示にしたがって行動すること、集団で行動することを知識や体験を通して学んでいた。講演を通して、災害のおそろしさを知り、いつ災害が起きるかを想定して行動することや備えの必要性について考えるようになった。

地震など身の周りで起こる災害に目が向いてしまうが、火山噴火を知ることでその他の災害に関心を持ち、正しい知識を身につける必要性について考える生徒が出てきた。小学生までとは違う行動をとるようになったこともあり、講演会後の事後学習では、災害時の行動や判断について考えるきっかけになった生徒が多い。(以下、事後学習の振り返りから)

- ・地震以外にも知識をもっておくことは大切だと思いました。大人と一緒にいる前提で考えていたが、 一人でいるときにも災害は起きると考えると、自分一人でできることを知っておきたいと思いました。
- ・何かあったらすぐに行動するのはどの災害でも同じなので、周りの人が行動していなくても、早めに 行動することは悪いことではないので、行動できるようにしたい。
- ・自然災害はなくすことができないので、正しい知識を身につけて、自分の命を自分で守れるようにしたいと思いました。

<写真>





【事例 】久慈市立長内中学校への講師派遣

日時 : 令和3年2月4日(木)13:40~15:10

場所 : 久慈市立長内中学校

対象: 1年生75名、職員8名

講師 : 岩手医科大学 災害時地域医療支援教育センター センター長 眞瀬智彦

内容: 講演「災害時医療について」

<要旨>

・阪神大震災などを例にした災害時における医療および災害現場の現実

- ・避難所での生活(衛生面・気をつけるべきこと・変化)
- ・新型コロナウイルス感染症について(感染防止策・今後について)
- ・トリアージについての説明および実習
- ・避難所での生活体験(段ボールベッド・簡易トイレ・備蓄食料)

<参加者の感想>

- ・地域の人や家族と協力して備えることが大切だということを学んだ。災害時の自分の家族の集合場所 や飲んでいる薬についても確認しておこうと思った。
- ・災害時の避難所での過ごし方を学ぶことができたので、このことを親と話し合い、多くの人に広げて いきたいです。
- ・はじめて学ぶことが多く大変勉強になりました。いままで医療系の仕事には興味がなかったが、選択 肢のひとつとして考えてみようと思った。
- ・トリアージという言葉は聞いたことがあったが、具体的にどのような分け方なのか知らなかったので 勉強になった。
- ・災害について日ごろからの対策が大切だと思った。また、実習で段ボールベッドの強度にとても驚い た。
- ・この地域でも 30 年以内に地震が起こる可能性があり、いま自分たちにできることは何か考える必要があると思った。

<実施の効果>

東日本大震災から 10 年という節目の年に、災害時の対応について今一度考えることで、復興教育に繋がる有意義なものであったと思います。特にも避難所での生活の大変さは、なかなか自分事として捉えることができないため、実際に段ボールベッドや簡易トイレに触れたことは、生徒たちにとって貴重な経験であったと感じます。また、トリアージについて説明だけでなく実際にカードを用いて演習もして下さり、このことがとても印象に残っている生徒も多くいたようです。備蓄食料もお土産としていただき、その日の夜に家族で食べながら授業で学んだことを交流したと報告してくれた生徒もいました。以上のことから、生徒の心に残る(響く)授業であったと考えます。

最後に、お忙しいなか、また突然の雪のなか長内中学校まで足を運んでくださり寒い体育館で授業をしていただいた眞瀬先生、高坂先生に感謝申し上げます。

<写真>





【事例 】盛岡市立黒石野中学校北杜分校への講師派遣

日時 : 令和3年2月4日(木)13:40~15:10

場所 : 盛岡市立黒石野中学校北杜分校

対象: 小学生1名、中学生9名、教員8名

講師 : 岩手大学 地域防災研究センター 教授 福留邦洋

内容: 講演「地震や災害・減災の概要等の説明」

演習「防災カルタ」を使用しての防災に関する演習

<参加者の感想>

・災害が起きてからやらなければならないことや、災害が起きる前にいろいろな物を準備することが大切だということなどが分かりました。実際に起きた例に基づいた話が分かりやすく、とても楽しい講義で良かったです。実際に災害が起こったときに、自分に出来ることを考えて、活用していきたいです。

・講義を受けて思ったことは2つあります。 1つは災害についてです。災害は人の生活に影響しない限りは、どんな大きな地震が起きても、災害にならないということです。 災害に基準があることに驚きました。

もう一つは、防災の大切さです。防災についていろいろ知り、改めて大切さを考えることができました。

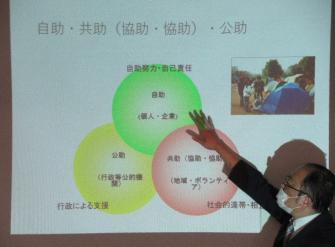
- ・今日の復興出前授業で学んだことを地域で生かしたいと思います。家から避難所までのルートを確認して、1つのルートだけでなく2つ、3つ考えておき、すぐに避難所に行けるようにしておきたいです。 それと、3日分の食料を準備しておいて、非常事態のときに食べられるようにしたいです。地震に備え、転倒防止用品など、物が倒れてこないようにしたいです。
- ・今回、東日本大震災や阪神淡路大震災など数多くの災害を受けて、日本の人や外国の人がどれほど自分たちに協力してくれたのか、災害で何を経験し何を改善したのかを学びました。「171」については昔教えてもらい知っていましたが新しく知ったこともありました。「つなみでんでんこ」 など思い出しました。まだ被災地で家や家族を なくし苦しんでいる人がいます。そのことを考えると、少しでも早くみんなが安心・安全にくらせて、よりよい社会を作ることが大切だと思いました。そのために自分ができることを積極的にやり、今後また大きな地震が来ても落ち着いて冷静に動きたいです。この学習を今後の生活に生かして楽しい生活を送れるようにしたいです。
- ・この講義を受けることができ、楽しくカルタなどもできてうれしかったです。いろいろなことを知り、 命のこともしっかり学べました。防災のことを勉強したので、今後に生かしていきたいです。これか ら楽しく生活できるよう頑張りたいと思います。
- ・自然災害の備えなどをくわしく、楽しく教えてくれたのでとてもよい2時間になりました。 今日聞いたことをこれからは意識して生活していきたいと思います。
- ・家を買う基準は建物の外見とか間取り、近所の人がどんな人、お風呂は など、周りにばかり考えが 行ってしまいますが、地震が来たときを想定して土地に気を配ったり、築何年からが良いのか、具体 的に説明をしていただき、なるほどと思いました。防災について考える機会がないと考えないことまで、深く教えていただき、大人になったときの家探しや暮らし方、普段の生活の在り方を考えること ができました。安全で安心できる生活ができるように、備えたり、家族と確認したりして、もしもの 時に素早く動けるようにしたいです。
- ・今日の授業を受けて、もしもの時に備えて準備をしておくことの大切さや、将来自分のためになることを知ることができました。また、これまであった災害のことを学び、どんなことがあったのかを知ることができました。いざという時の備えが自分は全然できていないなと思ったので、家族と話し合いをして、対策をしておくことが必要だと思いました。また、家具を固定しておくことは自分でもできると思ったので、実践してみたいです。災害で被害に遭ったことはあまりないけれど、いざという時のために対策をしっかり行っておき、自分の命をしっかり守れるようにしたいです。
- ・福留先生は生徒にわかりやすかったです。そのおかげで、3.11の時のことや災害にあったときの避難の仕方を覚えることができました。
- ・防災カルタで、災害が起きた時や災害が起きる前にやらなければならないことがわかりました。楽しく わかりやすく授業ができました。ありがとうございました。

<写真>









【事例 】認定こども園 都南幼稚園への講師派遣

日時 : 令和元年8月1日(木)10時00分~12時00分

場所 : 認定こども園 都南幼稚園

対象: 教職員 6名

講師 : 岩手大学 地域防災研究センター 教授 福留 邦洋

演題・内容: 危機管理マニュアルの中身に関する意見交換

<講演要旨>

本園の危機管理マニュアルが、園の規模、立地条件、周辺の環境に対して適切なものになっているか等 について、意見交換を行った。

<参加者からの感想>

・本園で作成した危機管理マニュアルに沿って、具体的にわかりやすく改善点を教えていただきました。様々な状況を盛り込んで自分たちなりに作成してみたマニュアルでしたが、専門の先生に見ていただくと、曖昧だったり、抽象的でいざというときに迷いが生じる内容であることに気づかされました。 先生に教えて頂いたことを元に、充実したマニュアル・訓練となっていくように今後につなげていきたいと思います。ありがとうございました。

<写真>







【事例 】釜石市立 大平中学校への講師派遣

日時 : 令和元年9月1日(日)10時45分~12時35分

場所 : 釜石市立 大平中学校

対象 : 53名 (生徒 27名、保護者 22名、教職員4名)

講師: 岩手大学 地域防災研究センター 教授 福留 邦洋 演題・内容:学校区内の土砂災害ハザードマップの作成(DIG)

<要旨>

学区の白地図を使って、地域の地形や道路・施設・人などに印をつけながら明らかにし、災害のリスクや避難について考える防災マップ作りを行った。

<参加者からの感想>

- ・ 危険な場所や、災害が起きたときに避難できる場所を地図に書き込んでみて普段わからないことや知らないことが知れたので良かったです。私の家の裏が山になっていて大雨が降った時に土砂崩れが起こる可能性があるし、道が狭いので消防車などが入れないことも改めてしっかり知れたので、いい機会になりました。もし大きな地震や災害が起きたときには今日学習したことをもいだしながら冷静に行動したいし、その時に今日作ったハザードマップを活用したいです。
- ・ 普段気にしていないことだったのに、探してみると危険な場所が多いと思いました。でもその逆に、 災害が起きたときに頼れる人がたくさんいることも知りました。今日の学習から、もしもの時に備 えての地域の人との交流が大切だと思いました。
- ・ 自分たちの住んでいる地域の特徴を改めて知ることができました。また近所にどのような方々が住んでいるのか親だけでなく、子ども達も知っておくことが必要だと感じました。今日はありがとうございました。

<写真>





【事例 】住田町立 有住中学校への講師派遣

日時 : 令和元年10月8日(火)10時30分~15時30分

場所 : 住田町立 有住中学校

対象 : 52 名 (生徒 38 名、教職員 14 名)

講師: 岩手大学 地域防災研究センター 助教 松林 由里子 演題・内容: 防災マップを活用した大雨洪水のワークショップ

<講演内容>

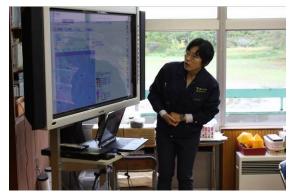
住田町防災教育ハザードマップを利用して、洪水、土砂災害の発生予測や避難経路の作成など、ワークショップを行った。

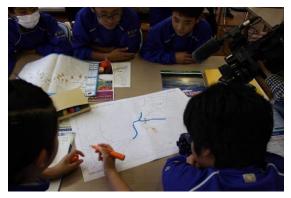
- ・ 避難の種類
- ・ 地図の等高線から災害想定区域を考える
- ・ 洪水、土砂災害の発生メカニズム
- ・ 学校から緊急避難までの危険地帯の視察

<成果等>

- 災害を常に想定した危機管理意識を醸成することができた。
- ・ 自ら判断して避難することの大切さを学ぶことができた。
- ・ 通学経路の危険区域を知ることができた。
- ・ 有住中学校周辺の危険区域を知り、安全な避難経路を策定した。

<写真>









【事例 】岩手県立 盛岡第一高等学校への講師派遣

日時 : 令和元年10月21日(月)13時20分~14時40分

場所 : 岩手県立 盛岡第一高等学校

対象 : 879 名 (全校生徒 820 名、教職員 59 名)

講師 : 岩手大学 地域防災研究センター 客員教授 越野 修三

演題・内容:「災害時の避難行動について」

<要旨>

- ・ 災害時のデータや画像を元に自然災害の恐ろしさとそこから自分の命を守る行動の取り方
- ・ 令和元年 10 月に発生した台風 19 号の状況から地域の浸水を考える(ハザードマップについて)

<参加者からの感想>

「自分だけは大丈夫」という思い込みを捨てて、自分の問題として災害をとらえるきっかけとなった。 避難訓練の重要性を理解することができた。 日時 : 平成30年7月2日(月)10時45分~12時35分

場所 : 西根中学校

対象: 西根中学校 第2学年 86名

講師 : 岩手医科大学 眞瀬 智彦 教授、 藤原 弘之 准教授

藤原 淳一 教務課長、 蒲澤 優、奥野 史寛、高須 翠

演題: 『災害医療について』

<講演要旨>

・災害医療について

・トリアージ、衛星電話、トランシーバー、ラップポンについて体験

<生徒からの感想>

- ・災害時に治療の優先順を決めて、一人一人の治療をするには、迅速で的確な行動が大切だと思った。 中学生として少しでも助けることができるような行動をしていきたい。また、災害時用の道具はあら ゆるケースに対応でき、わかりやすい使い方でとても有能なものだと思った。
- ・「災害医療」とは限りある資材で多くの人を助けることであることがわかった。人の命に優先順位をつけるのはつらいことだが、多くの命を助けるためには仕方がないことだと思った。今回の話しを聞いて、多くの命を助けたいという思いが伝わってきた。「自助」「共助」がとても大切だと感じた。

<写真>





平成 29 年度

日時 : 平成29年11月18日(土)13時45分~15時15分

場所 : 鳥海小学校

対象 : 鳥海小学校 第1~6学年(全校) 保護者・教職員 計36名

講師 : 岩手大学 教育学部 非常勤講師 吉田 智子

演題 : 『きょうもげんきだ! - はやね・はやおき・あさごはん - 』

<講演要旨>

・子どもの成長と睡眠の関係について

- ・朝食の役割と献立について
- ・外遊びと運動能力の関係について

<生徒からの感想>

- ・はやね・はやおき・あさごはんのことをたくさんおしえてもらいました。 8 時にねるといいことがわかりました。今度から 8 時にねたいです。
- ・生活習慣を見直すいい機会になりました。よりよい生活をしていこうと思いました。

<保護者・教職員からの感想>

- ・子どもたちが90分間もしっかり話を聴いていたことに驚きました。睡眠の時間だけではなく,睡眠をとる時間帯も大事だと解りました。朝食はご飯と具だくさんの味噌汁がよいと聴き、早速見直しをしようと思いました。
- ・睡眠の役割や学力との関係、睡眠不足が不登校を引き起こすことなど、お話を聞いて知らなかったことがたくさんありました。

<講演による効果>

長年研究を続けてきた講師から睡眠や朝食の大切さを,豊富な資料と具体的な例を示していただきながら解りやすく教えていただきました。生活習慣を見直したいという児童が多く見られました。児童・保護者・教職員と三者が同時に講演を聴くことで,今後も協力し合いながら実践するための拠り所となる有意義な講演会となりました。

<写真>





【事例 】八幡平市立西根中学校への講師派遣

日時 : 平成29年7月6日(木)10時45分~12時35分

場所 : 西根中学校

対象: 西根中学校 第2学年 84名

講師 : 岩手医科大学 眞瀬 智彦 教授、 藤原 弘之 准教授

演題: 『災害時の医療について』

<講演要旨>

・衛星電話、トランシーバー、携帯トイレについて体験

<講演による効果>

災害がなんどき起きるか分からないので、そのために心の備えをする必要がある。その時のためにもこのような体験は必要であると思う。

<写真>





【事例 】山田町立豊間根中学校への講師派遣

日時 : 平成28年6月25日(土)13時30分~15時10分

場所 : 豊間根中学校

対象 : 豊間根中学校 第1~3学年(全校) 保護者・地域関係者 計93名

講師 : 岩手大学 人文社会科学部 栗林 徹 教授

演題 : 『中学生からの体力づくりと健康 - 生涯の健康のために - 』

<講演要旨>

・中学生の体力と重要性

- ・体力づくりと健康
- ・生涯を自立して健康的にすごすために

<生徒からの感想>

- ・保健体育でも習ったが、今が成長期なので、体力作りにしっかりと取り組むことが大切だと改めて感じました。
- ・加工食品に多く入っている「リン」が骨の成長を阻害すると聞いて驚きました。食生活を見直していき たいです。
- ・メタボリックシンドロームの予防には、運動が一番大事ということがわかりました。運動が苦手だけど いまのうちにできるだけ動きたいと思いました。

<保護者・地域関係者・教職員からの感想>

- ・中学生の時期が体を作っていくうえで、一番大事な時期だということ、栄養面 も運動面でもいろいるお話が聞けてよかったです。
- ・とても良い内容でした。中学生にもわかりやすく、楽しく聞き学ぶことができました。体をつくること の大切さがよくわかりました。
- ・大人にも子供にも共通した内容は難しいと思いましたが、わかりやすく話してくださったのでよかったです。保護者の方の参加がもっとあったほうがよかったと思いました。
- ・授業で説明している内容の裏付けとなる理論を話していただき、子供たちにも話の内容がスムーズに入ったと思います。
- ・子供の食について気になっていたので、今日は食について話題にできそうです。

<写真>





【事例

】学校法人龍澤学館 盛岡中央高等学校への講師派遣

日時 : 平成28年9月24日(土)9時00分~10時30分

場所 : 盛岡中央高等学校

対象 : 盛岡中央高等学校 特進 SZ/Zコース 第3学年 124名

講師: 岩手県復興局 推進協働担当課 鎌田 徳幸 課長 演題: 『復興を力に!-世界に羽ばたけいわてっ子-』

<講演要旨>

・東日本大震災津波による被害状況

- ・復興に向けた取り組み状況と課題
- ・岩手県の人口推移と課題
- ・復興と地域づくりに求められる人材

<生徒からの感想>

- ・復興へ向けて着実に進んではいるものの、その道のりの長いことがよく分かりました。なりわい・安全・暮らしのいずれか一つでも欠けてしまっては成り立たないことや、様々な方面に向けて同時進行に進めていかなければならないその過酷さを実際のデータから感じることができました。これまで以上に自分が社会に対して何をすることができるかを考えていきたい。(SZ3年女子)
- ・復興というと、流された建造物や土地をもう一度もとに戻すことだと思っていた。しかし、復興にはいるいるな目的もあり、必ずしも建造物を直すとは限らない。復興とは失ったものを戻しつつ、これからのことを考え、新しいものを生み出していくことだと知った。(Z 3 年男子)
- ・テレビや新聞で被災した地域に関して、ある程度知っていたつもりでいたけれど、数字で表された資料はあまり見てこなかった。岩手県民として被災地の現状を把握できていなかったと感じた。これから、どのような進路に進むにしても、自分の生まれ育った県や地域のことを知っている必要があると思った。岩手県のことに限らず、日本・世界の様々な問題について、他人事と思わず、その解決策を考えていけるようにしたい(Z3年女子)

<講演による効果>

震災津波の経験から、自らのあり方を考え、これからの社会をどう創りあげていくのかを考えるとても良い機会となりました。

<写真>





【事例 】盛岡市立見前南中学校への講師派遣

日時 : 平成28年10月17日(月)10時55分~12時45分

場所 : 見前南中学校 体育館

対象 : 見前南中学校 全校生徒 455名、教職員 25名 講師 : 岩手大学 大学院教育学研究科 森本 晋也 准教授

<講演要旨>

・防災教室

(1)巨大地震、津波、台風、土砂災害等の自然災害に対する知識を学ぶ。

(2)大きな災害に対応し、迅速かつ的確に避難場所に移動することができるようにする。

<生徒からの感想>

- ・今日の学習で、自助、共助、公助を学びました。災害が起こったときには、まず自分に命を大切にし、次に家族や地域の人を助けていきたい。今日学んだことを、家族と話し合って、災害の備えをしっかりとできる人になりたい。
- ・今日の防災の授業を受けて、自分で自分の命を守ることがとても大切だという気持ちがより強くなりました。また、自分が気づいていなくても、身近にはたくさんの危険があることを知ったので、災害があったときでも無いときでも周囲に気を配って、自分で身を守るようにしたいと思いました。普段から危険な場所に近づいたりしないようにしたり、家具の置き方を変えたりして工夫してみたいと思いました。
- ・防災の話を聞いて、自分の命は自分で守ることの大切さに改めて気づくことができた。特に、津波の速度は速いため、人を助けたり迎えに行ったりするよりも、先にまず自分で逃げることを小学校低学年の子が理解していたのがすごいと思った。家庭でも、普段から避難経路や避難グッズを確かめておき、いざという時のために準備しておこうと思った。
- ・今日の防災教室を受けて、自分の命を自分で守ることは当たり前のことだけど、いざ地震や他の災害が起きたときに正しく行動することが、簡単なことではないと思った。これからも、防災訓練をしっかりして、いざというときに動けるように備えようと思った。また、日頃から防災への意識をもっと高め、家族とも普段から避難場所について話しあっておこうと思った。

<写真>



平成 27 年度

日時 : 平成27年6月17日(水)14時00分~14時50分

場所 : 大迫中学校

対象: 大迫中学校 第1~3学年(全校) 118名、教職員10名

講師 : 岩手医科大学 災害医学講座 眞瀬 智彦 特命教授、藤原 弘之 特命助教

演題: 『災害医療について・災害時の情報伝達について』

<講演要旨>

・災害医療の概要

・トリアージ、瓦礫の下の医療活動、広域搬送、DMATの活動等

・災害時の情報伝達 (トランシーバー、拡声器、衛星電話等)

・実演、演習

<生徒からの感想>

「救急医療と災害医療の違い、どんな状況が災害といえるのか、災害のときの連絡方法、災害が起きたらなど知らないことがたくさんありました。講演だけではなく実演もしてくださったので、さらにわかりやすかったです。」

「トリアージで傷病者の治療の順位を決めることや、広域医療搬送で他県などに搬送することなど、医療に携わる人は本当に大変だと思いました。もしも災害が起きたとき、自分を守り、周りの人と助け合ったりすることや、普段からどこに避難するか、食料はどこかなど考えていきたいと思いました。」

<講演による効果>

生徒は実演や演習もあったこともあり、いつもにも増して真剣に集中して講演に参加することができていました。災害医療や防災について学ぶ貴重な場になっただけではなく、日記に感想を書くなど、学習したことを自分のこととして感じることができ、大変有意義な講演会でした

<写真>





【事例 】岩手県立久慈高等学校への講師派遣

日時 : 平成27年7月17日(金)13時15分~14時55分

場所 : 久慈高等学校 視聴覚室・数学演習室 対象 : 久慈高等学校 第3学年A組 29名

講師 : 一般社団法人岩手県銀行協会 常務理事 菊池 芳泉

<講演要旨>

・ライフステージで学ぶ銀行

講義形式でさまざまな銀行の役割を講演

・ライフプラン作成

パソコンを利用して実際に自分自身の生涯マネープランをつくりながら金銭的な感覚を養う。

・金融犯罪の手口と対策

近年増加する特殊詐欺やインターネット犯罪について講演

<生徒からの感想>

- ・銀行の仕事を誤解していた。思っていたよりも多くの仕事をこなしていることに驚いた。
- ・最初は興味なかったが、自分にも関係あることだと思えるようになった。
- ・教育や家を建てるのにそんなにお金がかかるのかと不安になった。
- ・意外と給料をもらえることに驚いた。
- ・意外と給料が少ないことに驚いた。
- ・計画をたててみると、楽には暮らせそうにないのでこつこつとがんばっていくしかない。
- ・うちのおばあちゃんも詐欺に遭いそうになり、この本を見せてあげたい。

<講演による効果>

生徒は文系で、経済系に進む者も多く、また就職希望者がいるクラスでもあり、金融教育は必要だと感じていた。講師はこちらが望むことを丁寧に説明してくださり、途中には作業もあって生徒を飽きさせなかった。お金が身近な存在であると同時に、知らないことが多いこと、扱い方を誤ると危ないものにもなることを実感したようである。今後の進路達成に向けて実りのある講演となった。

<写真>





【事例 】岩手県立杜陵高等学校への講師派遣

日時 : 平成27年10月2日(金) 12時00分~13時00分

17時45分~18時35分

場所 : 杜陵高等学校 多目的ホール 視聴覚室

対象 : 杜陵高等学校 定時制1・2部 107名 定時制3部 14名、教職員40名

講師 : 岩手県立大学 社会福祉学部 准教授 中谷 敬明

演題 : 『こころの危機とは何か ~ "なぜ"と"どうやって"という態度~』

<講演要旨>

・トラウマティックストレス、悲嘆

・災害後の心の変化

・今後取り組んでいくべきこと 等

<生徒からの感想>

・トラウマティックストレスや複雑性悲嘆など、自分では気づかない心の痛みがあり、支援が必要なのだということを知りました。今でもストレスを抱えて生きている人が大勢いて、その中で自分は贅沢すぎるほどいい生活をできているのだと思いました。人の相談はいつでも真剣に聞いていきたいと思います。(1・2 部 1 年女子)

- ・あまり震災で影響を受けなかった僕は心にダメージを負わなかったが、やはり精神的に大きく傷を負った人たちがいることを再確認できた。今回はストレスについて学んだが、それと同じくらい「良心」という言葉が強調されていた。確立された安心を得るために良心に従って選択し互いに影響しあい社会を動かしていくことが大切ということに気付かされた。これからは何か迷った時には良心に従って行動してみようと思う。(1・2 部 3 年男子)
- ・時間が経っても悲嘆から抜け出せない人、逆に時間が経つほどに悲嘆を自覚していく人も多いことに驚いた。 幼くして被災した子も周囲にたくさんいると思うので、注意して見守っていきたい。そして自分自身の変化にも意識を向け、不安に思うことがあれば今回の講演を思い出し、ためらわずに周囲の人と話し合ってみようと思う。(3 部 4 年男子)

<講演による効果>

トラウマティックストレスと悲嘆というキーワードを中心に、災害後の心の変化、われわれが今後取り組んでいくべきこと等についてご講演をいただいた。 復興が進みつつある今こそ心の危機はまだ進行中であること、その中でも我々が取り組めることがあることなどの中谷先生のメッセージは、生徒達の心に伝わったと感じた。

<写真>





【事例 】山田町立豊間根中学校への講師派遣

日時 : 平成27年11月28日(土)13時30分~15時00分

場所 : 豊間根中学校 体育館

対象 : 豊間根中学校 第1~3学年(全校) 80名、保護者・関係者 30名

講師 : 一関工業高等専門学校 機械工学科 准教授 八戸 俊貴 演題 : 『宇宙開発の歴史と今後の展望 ~人類初飛行から未来まで~』

<講演要旨>

・宇宙開発や飛行機開発の歴史、NASA、JAXAのあゆみについて

・宇宙旅行や火星移住計画など、宇宙開発の未来について

・宇宙開発に関わった人々をとりあげた書籍の紹介

<生徒からの感想>

- ・人類が夢見てきた飛行への憧れが、現実になっていく過程のお話は大変興味深く聞きました。
- ・講演の中で紹介された本を、ぜひ読んでみたいと思いました。
- ・火星移住の話は驚きましたが、宇宙開発が日々進歩していることがよくわかりました。
- ・これまで聞く機会の少ない宇宙開発分野に関わるお話は楽しく、幅広い知識による講演内容にとても 興味を覚えました。
- ・希望する職業とは違う分野ですが、興味をもったことは積極的に自分から調べてみようとする気持ちが 大切と感じました。

<保護者・地域関係者感想から>

- ・難しい宇宙開発の話を分かりやすく説明していただいたと思います。中学生には、大変夢のある話が聞けたと思います。
- ・ライト兄弟の飛行機製作時に、当時の人が「機械を飛ばすことは科学的に不可能なこと」と言っていた という説明部分が印象に残りました。不可能を可能にしていくことができると、中学生も勇気をもってく れるといいですね。

<講演による効果>

第一線で活躍する講師から専門分野に関わるお話を聴講し、中学生が将来への夢を抱きよりよい生き方 を真剣に考える機会となった。また、保護者や地域関係者も中学生と一緒に聴講し、有意義な講演会と なった。





<写真>

平成 26 年度

日時 : 平成26年6月12日(木)14時30分~15時45分

場所: サンセール盛岡

対象 : 平成26年度岩手県産業教育振興会総会並びに理事会参加者約80名

講師 : 岩手大学 工学部 機械システム工学科 岩渕 明 教授

演題: 『地域の現場を担う高卒人材の育成について』

<講演要旨>

・岩手県の高校の現状

・岩手大学の復興推進活動

・いわて未来づくり機構-復興教育作業部会-

・専門高校への期待

・地域活性化にむけて

<感想・講演による効果>

今回の岩渕教授の講義はまさに時季に叶った内容であり、産業教育を支える者、推進する者にとって新たな決意を促すものとなった。

一方で、専門高校での成績優秀者が県外へ流出する原因については、様々な意見が寄せられた。

曰く

成績優秀者も潜在的には地元志向がかなり強いこと。地元に優秀な企業の立地が少ないことから、 やむなく県外へ流出すること。

地元に優良企業が立地している場合には、成績優秀者から間違いなく応募していること。

四国4県ほどの県土を有する岩手の高校生の就職問題を一元的に取り扱うことの困難性(企業立地、通勤距離等を含んだ地域間格差の存在)

普通高校卒就職者と専門高校卒就職者との比較が大事(学力・実践力・離職問題等)

学力面で一方的に普通科より専門科が低位にあるとの認識に疑問(一部の超進学校を除いて)

震災復興に岩手大学がどのように立ち向かい、貢献しているのかが良く理解できた。

ともあれ、演題「地域の現場を担う高卒人材について」関係者で共通認識することの重要性を学ぶことができ、このような機会を提供してくださった「いわて未来づくり機構復興作業部会事務局(岩手大学地域連携推進課)」の関係の皆様に深く感謝を申し上げたい。

今後とも当会に対しまして、 関係各位の益々のご支援とご協力を切にお願いしたい。

<写真>



【事例 】「奥州市立水沢中学校」への講師派遣

日時 : 平成26年9月8日(月)13時40分~14時50分

場所: 水沢中学校 第1体育館

対象: 水沢中学校 第3学年 227名

講師 : 岩手県復興局復興推進課 菊池 学 推進協働担当課長

<講演要旨>

1 岩手県庁・公務員の仕事について

2 東日本大震災津波による被害状況

3 復興への取組

復興に向けてまちづくり 復興計画 3つの原則に基づく取組

復興の課題 新たな飛躍に向けて

<生徒からの感想(抜粋)>

- ・「復興」とは元通りにするのではなく、元よりもより良いものにするということだと教えられました。 今、沿岸の人たちは、正に復興に向けて、日々、努力しているのだということが、菊池さんのお話を聞 いて良くわかりました。(3 A 女子)
- ・復興について自分が知らなかったことばかりで、いつの間にか震災や復興のことに感心を持たなくなっていたのかもしれません。自分が知らなかっただけで、たくさんの復興活動が行われていたこと、そして、そのために他県などからのたくさんの協力者が来ているのだと知りました。改めて、助け合うことがものすごく大切なことで、助け合うことでたくさんの困難を乗り越えていくことができるのだと学ぶことができました。(3 A 男子)

<講演による効果>

「私たちはあの日、あの時を忘れない」と題して、震災の状況を改めて知り、復興の現状を知った上で、自分たちの生き方や将来のことを考えていこうと震災復興学習に取り組んでいます。今回、国や市町村との調整を取り、全体的な復興を推し進める立場の県庁から講師の方を招いて講演していただいて、改めて、復興への取り組みは沿岸地域だけの問題ではなく県全体、みんなの復興なんだということを考えさせることができたと感じました。「あの日を忘れない」だけではなく、「自分にできることはなんだろう」と意識する生徒も増えました。この講演の後、沿岸の釜石、大船渡を訪問し更に学習してきましたが、感謝の気持ちを込めた合唱をそれぞれの場所で歌えたのも生徒の変化の一つだと感じました。大きな変化は求められませんが、教育現場での復興教育を繰り返し、機会をとらえて実施していかなければならないと考えております。

<写真>



【事例 】「盛岡市立玉山中学校」への講師派遣

日時 : 平成27年1月26日(月)13時30分~14時20分

場所 : 玉山中学校 視聴覚室

対象: 玉山中学校 第1~3学年(全校) 27名、教職員8名

講師 : 岩手県立大学 総合政策学部 伊藤 英之 教授

<講演要旨>

前半は、防災対応カードゲーム教材「クロスロード」を利用し、グループ毎(5人×7グループ)にカードに書かれた事例についてYESかNOか自分の考えを示し、メンバー同士で意見交換を行った。

後半は、伊藤先生による講義を通して、災害対応においては必ずしも「正解」があるとは限らないことや、 万が一の場合には、誰もが自分の意見をしっかりと持ち対応すること、そのために災害が起こる前から考えて おくことの大切さなどを学ぶことができた。

<生徒からの感想(抜粋)>

- ・突然万が一の場合があった時、「答えがない」と言うことが分かった。どちらを選ぶにしても、決断をしなくてはならないということが分かった。それぞれ違う意見があって、もし自分が災害に巻き込まれても、冷静に判断していきたいと思った。(1年女子)
- ・災害時には生き残った者が勝ちという事が、なるほどなと思った。また、非常時の行動の答えはなくて、どれも正解だという事が分かった。もし、非常時には、僕も適切な判断をして、自分の命や他の人の命を救えるような判断ができるようになりたいと思った。(2年男子)
- ・今日のカードゲームをやっていて、全ての質問に悩んだ。どの答えにも問題点があることも分かった。私たちのグループでは、「命は一つしかないから」ということが共通点だった。伊藤先生が最後におっしゃっていた通り、情報をいち早く得て、それを共有することが大切なのだと思った。(3年女子)
- ・伊藤先生のお話の中で、「この問題に正解はない。生き残った人が勝ちなんだ」と言う言葉があった。僕はこれを聞いて、まず考えるべきなのだと思った。また、「情報は互いに伝えるべき」という言葉もあり、自分が生きるために行動しながら、皆と協力して助け合っていくことが大切なのだと学んだ。僕の「その時」のために備えていきたい。(3年男子)

<講演による効果>

今回の学習を通して、生徒・教職員共に災害対応を真剣に自分自身の問題と捉え、様々な考えや価値観を共有することができた。また、過去の事例が必ずしも正解とはいえない場合もあることや、実際の災害時には想定外のたくさんの問題に直面することを実感し、具体的に災害のイメージ化を図ることもできた。日頃から想像力を高め、意思決定することの大切さを学んだことは、生徒にとって確かな「生きる力」となり、今後の人生がより豊かなものになるものと思っている。最後に伊藤先生、補助に入って下さった学生4名に深く感謝したい。ありがとうございました。

<写直>





事例 】「岩手県立盛岡第三高等学校」への講師派遣

日時 : 平成27年2月26日(木)15時05分~16時05分

場所 : 盛岡第三高等学校

対象: 盛岡第三高等学校 第1学年 283名

【講演内容 ~ 希望選択制】

講師 : 岩手県立大学 宮古短期大学部 教授 植田眞弘

演題 : 「沿岸被災地の地域経済を復興から持続的発展の軌道にのせるための課題」

<講演要旨>

沿岸の地域経済の震災前と震災後の変化、拡大する内陸との経済格差の現状、地場産業の現状、 地域産業が競争をつけるための課題と可能性



講師 : 岩手県立大学 社会福祉学部 准教授 細越久美子

演題 : 「外国人の防災」

<講演要旨>

震災時体験、在日外国人の地位や岩手県在住の外国人の状況、震災時の外国人への支援の状況、普段から外国人とコミュニケーションを取ることの重要性、わかりやすい日本語での情報提供の必要性



講師 : 岩手医科大学 こころのケアセンター 副センター長 大塚耕太郎

演題 : 「こころの健康について~こころに寄り添うために~」

<講演要旨>

流れ星エクササイズ(演習)、人とのコミュニケーションの取り方、良いコミュニケーションを取るための「ON」「OFF」の関係とその関係作りのためのスキル、相手の感情を捉えることの大切さ



<生徒からの感想(抜粋)>

- ・大震災の被害から復興には大変革が必要だと思った。僕もしっかり考えて将来は変革を担える人材になりたい。また、絵に描いた餅ではなく具体的に論理的に数字を使って考える未来を創る経済学が楽しいと思った。
- ・今回の講座に参加して日本で外国人の生活を支援するということは興味深いと思いました。今回の講座は、自分の将来を考えるよいきっかけとなりました。また、外国語の勉強をしっかり積み上げたいと思いました。

<講演による効果>

事後のアンケートの結果、「自分の成長や向上のために有意義な取り組みだった」の項目に「そうである「どちらかというとそうである」という前向きな評価が9割以上をはじめとして、その他の項目に対しても7割以上の前向きな評価がなされた。このような取り組みは一般教科の学習への意欲や進路意識を喚起する意味でも大きな効果があることを発見できた。